

クルマをキレイにし、その先にあるお客様の笑顔のために、日本一を目指す!

第6回 2019年 キーパー技術コンテスト

全日本チャンピオン決定戦レポート

全国のキーパーコーティング施工者の技術向上、お客様に喜んでいただける高品質なキーパーコーティングの提供を目的として、毎年開催されるキーパー技術コンテスト。さる5月23日(木)、24日(金)、キーパー技研本社にある中央トレーニングセンターにて、今年で6回目となる「キーパー技術コンテスト」全日本チャンピオン戦が行われました。夏のような暑さの中、各都道府県のチャンピオンが集結し、コンマ差の点数を争うハイレベルな戦いが繰り広げられました。熱い、エキサイティングな戦いをレポートします!



5月23日(木) 準決勝

会場は熱気ムンムン! 47名の選手が技術という名のしのぎを削る!!



1人の選手に、採点者2人。鋭い視線を感じながら施工する。応援者の目も集まる。プレッシャーをいかに克服するかも選手の課題だ。

どの選手も無駄のないしなやかな動きで、施工に集中する選手たち。



過去チャンピオンから指導を受け、出場している選手も増えてきている。キーパーコーティングの技術と品質は次の世代へとしっかり受け継がれていく。

夏のような暑さだが爽やかな午後、準決勝が行われた。今年は例年以上に応援者が多く、会場の中央トレーニングセンターは熱気ムンムン。応援ファックスだけでなく、垂れ幕のぼり、横断幕も掲げられ、応援者の気合も十分だ。施工する車はプリウスのグレー。クリスタルキーパーを1台2名の選手が半分ずつ施工する。

施工開始の合図が出されると、各都道府県と香港から集結した47名の選手たちは、一斉に動きだす。採点者、動画やスチールのカメラマンが選手の間を縫うように動いている中、選手たちは集中して施工を行う。異常なまでに、どの選手も

動きが早い。まるでアクロバットを見ているかのようだ。

最も早かったのが(株)三ツ輪商會Dr. Drive十條前店の佐藤選手で21分9秒だった。後に着くように次々と選手が施工を終える。

結果、1位通過は大阪府代表(株)ネクステージDr. Driveセルフ十三SSの勝田浩代選手。続いて2位通過は広島県代表出光リテール販売(株)中国カンパニー大竹SSの保田隆洋選手、3位通過は福井県代表(株)ENEOSウイング武生SSの田中力跳選手、他上位11位までの選手が決勝に進出した。

47名のうち、11名が決勝進出へ!



北海道第1チャンピオン/佐藤 智幸 選手



新潟県チャンピオン/江川 佳奈 選手



岡山県チャンピオン/高田 修史 選手



茨城県チャンピオン/中嶋 彩貴 選手



鹿児島県チャンピオン/中俣 翔一 選手



東京第1チャンピオン/後藤 輝章 選手



岐阜県チャンピオン/小野 麻由 選手



京都府チャンピオン/村田 康 選手



広島県チャンピオン/保田 隆洋 選手



福井県チャンピオン/田中 力跳 選手



大阪府チャンピオン/勝田 浩代 選手

5月24日(金) 決勝

普段の施工を積み重ね、普段通りの技術で全力を出し切った者が勝つ!!

昨日に引き続き夏日となった決勝。いよいよ2019年の日本一が決定する。決勝進出選手、進出がなかった選手、応援者が席に着くと、谷会長より一つの提案があった。「突然で申し訳ないが、時間加点を取り止めます」。準決勝、各都道府県のチャンピオン同士の争いでありながら、半数以上の選手の競技得点が150点台だった。過去にそんなことはあり得なかった。早いタイムを出さなければ勝てないというスピード競技になっていたのではないかと。目的はそうではない。クルマをキレイにし、お客様に喜んでいただき、施工する者もうれしくなって、お店の売上も上がる。そんなプラスの循環を作っていくことがキーパーコーティングの目的である。時間は計測するが、同点の選手があった場合に参考にするまでとなった。その谷会長の提案に、会場から大きな拍手が上がった。

試合開始前、選手の紹介とともに、選手一人ひとりが決勝にかけたい想いを一言ずつ語る。過去に全日本チャンピオンに出場し、今年でコンテスト出場が最後となる選手も複数いる。「泣いても、笑っても、これが最後。全力を出し切り、悔いのない施工をしたい...」。選

手のそれぞれの想い、応援者の期待が会場を埋め尽くし、緊張感が張り詰める。

決勝はダイヤモンドキーパーを1人1台施工する。体力と集中力が必要とされる。バテないように、ランニングなどの体力作りを行っている選手も多い。試合が始まると、選手たちに準決勝時のような焦りは感じられない。お客様の喜び顔を思い浮かべながら、施工に真剣集中している。みるみる汗が滲み、ポタポタと落ちるのみにせずひたすら施工する。動きには無駄がなく、迷いもない。この姿をお客様が見たら、感動するだろう。素人目では、その技術の差はまったくわからない。

結果発表、全日本チャンピオンとして名前が呼ばれたのは、茨城県代表の(株)アドバンス・カーライフサービスDr. Driveセルフつくば研究学園店の中嶋彩貴選手。前年は全国5位に終わり、今年絶対にチャンピオンになるという目標を立て、日々の施工に向き合った。令和最初の日本一は、歴代2人目の女性となった。



試合終了後の品質確認は、緊張の瞬間。一つの拭き残り、一つの水滴が勝敗を分ける。

「全日本チャンピオンは...中嶋彩貴選手!」名前が呼ばれた瞬間、中嶋選手の目から涙があふれ出す。全力で努力してきた選手だからこそ、その感動は大きい。おめでとございます!

